

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき全ての職員が個々の利用者に対し計画を立案し実行している。理念を話し合う機会を設けることができていない。	理念を玄関や事務所等の目に付くところに掲示し、意識づけを図っている。職員は理念に基づき介護計画の立案やケアを行っているが、現理念は開設時に作られたものであり、現職員で理念について話し合う機会もなかったため、現職員の考えを反映させた理念づくりの必要性を感じている。	開設から8年が経過し職員の入れ替わりも進んでいることから、地域や利用者のニーズ、状況の変化や等を考慮し、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、現状にあった作りかえも視野に入れて職員全員で話し合いの場を持つことが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会合や懇親会や地域行事への参加や広報誌を回覧板で回している。他の事業所などとの交流も始めている。	地域の自治会に加入しており、事業所の広報誌を回覧板に乗せてもらい情報発信するほか、会合や町内遊歩道のゴミ拾い等に参加し、地域住民の一員として地域活動に関わっている。また、近隣事業所の文化祭に出品したり、近隣小学校の文化祭見学、地域デイとの交流も行い、地域とのつながり、交流を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の診療所、在宅介護支援事業所と共に地域の方からの相談を受けている。また、実習生の受入を積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や取り組みを報告し、出席者からの意見を部署会議等で検討しサービス向上に取り入れている。	市職員・包括職員・民生委員・法人内診療所の看護師・家族代表の参加で定期的開催している。ホームの活動報告を行い、意見交換している。市職員から避難勧告が出た際の対応を確認され、未決定であることが判明したが、その後の職員会議で対応方法を協議し決定する等、意見を活かす取り組みを行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営体制等、市の担当者や地域包括支援センターと連絡をとり、相談や意見をもらい連携を図っている。また、市の介護相談員より来所してもらいサービス向上に努めている。	市の担当者には運営推進会議に参加してもらっており、事業所の取り組みを理解してもらうと共に、改善に向けた意見をもらっている。日頃から不明点等があればすぐ連絡をとり相談させてもらったり、市主催の地域密着型サービス事業所の会合・懇親会への参加を通じて話しやすい関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修や学習会を通じて全職員が認識しており、身体拘束は行っていない。	定期的に法人内やホーム内で身体拘束に関する研修が実施されており、言葉による拘束等、拘束にあたる行為の具体的な種類を学び、理解を深めている。日頃のケアのなかでも、職員の言動に対して管理者が疑問に感じた場合は、経緯を聞いたうえで判断し、納得できるように助言・指導し、拘束防止に努めている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や学習会で学ぶ機会を持っている。何が虐待につながるのかを理解し、見過ごされることがないように注意し、防止に努めている。	定期的に法人内やホーム内で研修が実施されており、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃から不適切な言動がないか職員間で注意合ったり、管理者が疑問に思った時はその場で注意し、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、研修に参加するなどして理解を深めるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の他、ホームでの生活についても丁寧に説明し、利用者や家族の声にもしっかりと耳を傾けることで納得していただける努力をし、相互に信頼関係を築けるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や要望を話しやすい環境作りに努め、ご家族が意見を言いやすいように意見箱も設置している。また、外部の窓口もお知らせしている。	利用者には意見要望を聞くように努めているが、言葉ではなかなか表出しなため、職員が複数の提案を行い、選んでもらう方式を取る等の工夫を行っている。家族には、来訪時に積極的に声をかけ意見要望がないか問いかけており、居室のカレンダーに意見要望等を記入してもらおう方もいる。また、様子を伝える手紙を毎月出したり、電話連絡も普段からこまめに行って情報を伝えたり相談することで、意見や要望を気軽に表出してもらえるような信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議には本部の職員も参加し、職員の意見や提案を聞く機会としている。意見を全員で話し合い運営に反映している。	毎月1回、全職員と法人本部職員も参加する部署会議を行い、職員の意見、要望、提案を聞くとともに、毎回ケアに関する議題を決めて話し合っている。利用者へのケアサービス向上に活かせる意見も多く出しており、全員で話し合うことで周知も図れ、利用者への対応もより良いものとなっている。年1回、管理者と職員の個別面談も行われており、意見を表出する機会となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の支給、退職金共済加入による退職金制度、健康診断の実施やリフレッシュ休暇など働きやすい職場環境に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人、事業所内で研修会、学習会をおこなっている。外部研修に参加できる機会が少ない為、今後検討していきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会や市の研修、他の事業所との交流を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に本人や家族の身上を把握するとともにその思いや不安を受け止め、納得のいく説明や事前見学にて交流を図るなど、安心と信頼がえられるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向とホームに望むこと、ご本人への思いなどを引き出し、安心と信頼が得られるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況や希望を、様々な観点から必要性を検討し、他のサービス事業所とも情報交換しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした環境の中、お互いに寄り添い作業を一緒に行ったり、行動や会話から学び認め合い感謝しあっている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の情報を共有しながら、ご家族の状況にも配慮しながら、それぞれができる協力をお願いしている。	家族に手紙や写真、電話で生活状況を報告したり、面会の際にはコミュニケーションをとることにより情報交換を行い、本人に関する情報を共有して共に生活支援を検討している。家族からの手紙への返事をサポートしたり、隔週で利用者から家族へ電話をかけてもらう等、関係維持の支援を行っている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来られた際はゆっくり過ごしていただくように支援している。電話や手紙のやり取りなども出来るだけ支援している。	入居時に本人・家族から聞き取りを行い、馴染みの人や場所等の情報を把握している。入居後も本人や家族の会話のなかから情報を引き出すように努めている。馴染みの場所への外出を支援し、家族にも外出への協力をお願いしている。友人・知人が高齢で訪問が困難な方には、電話により繋がりが保てるよう、支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うもの同士が声を掛け合う関係が築けている。孤立しがちな利用者には職員との関わりを通して周囲とのコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に乗れるように声をかけている。他施設に移られた場合でも施設間での協力ができるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通じて個々の言動や表情などから思いや気持ちを推測すると共に、家族の希望や意向を聞きながら検討している。	朝夕の挨拶時などにコミュニケーションを図るなど全利用者 と接する時間をつくるよう努めている。思いや意向をストレートに言葉にされる方は少ない為、表情やしぐさから感情を読み取り把握している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所後も利用者、家族から情報を得たり、必要があれば以前利用していたサービス事業所からも情報を得ている。	居室担当職員が6か月毎にセンター方式のシートに情報を集約し把握している。利用者や家族と接する中で新しく知り得る情報も多く、申し送りやカンファレンスで情報共有しているが、記録として残らないこともあり新しい書式を検討している。	日々の気づきやカンファレンスの内容などが情報として整理され全体像が把握できるよう書式を工夫されることに期待したい。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや記録等により、個々の現状を伝え合い把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護職員や必要があれば医療機関からも意見を集約し、担当者会議にて計画の評価と意見検討することで、その方にあつた計画の作成を行っている。	家族の要望を取り入れ、居室担当職員・計画作成担当者・管理者が担当者会議で話し合い、リハビリや医療など専門職の意見も参考にして、計画を作成している。計画が実践されたか毎日振り返り3ヶ月に1回モニタリングし、必要があれば計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や状態変化など個別の記録にや申し送りシート、連絡ノートを用いて全職員が情報共有できるように徹底している。また、介護計画作成の際にも活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて母体の診療所や法人本部と連携をとり、必要な情報提供や柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会や文化祭など地域の行事に参加したり、ボランティアの方に来所してもらったりと、楽しく生活していただけるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している医療機関で受診している。又、日々の状態を主治医へ伝えたり連絡を取り合っている。	希望するかかりつけ医に家族が同行し受診している。近くにある同法人の診療所は月2回往診してくれるため、家族の負担も少なく希望される方が多い。主治医には文書で情報提供し、受診結果報告書は家族にも郵送している。週1回看護師の訪問があり何かあればすぐ対応してくれる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体診療所と医療連携体制契約により、看護師が月4回訪問し状態確認してもらっている。また、24時間体制で相談できるように支援していただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の相談員や看護師と連携し、情報提供を行っている。また、母体診療所に状況を伝え、退院後の対応などを相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向を尊重し、関係機関と対応方法を話し合いながら、その人らしい終末期を迎えられるよう情報共有し対応している。	看取りに関する指針があり、入居時説明している。介護度が重くなっても、当ホームでの生活を希望され家族の理解と協力が得られれば看取りは可能と考えている。医療機関と24時間の協力体制を整えているが、医療が常時必要な方など対応ができない場合もあり状態変化に応じてその都度家族と話し合っている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認や研修を実施し、日頃から診療所看護師にアドバイスをもらいながら対応している。	消防署の指導の下AEDの使い方・救急救命法・応急手当について講習を受けている。診療所の看護師より感染症対策や皮膚の処置など必要に応じ実技指導を受けている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、マニュアルの確認を行っている。地域の方にも協力を得られるように働きかけている。	年2回避難訓練を行っている。両ユニットの職員は全利用者の情報を共有しており連携している。以前近くの川の水位が上がったことがあり、法人の他施設が連携し速やかに避難誘導することができた。その際水害マニュアルを見直している。地域の方にも協力が得られるよう声かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人ひとりが対応に十分注意をし、お互いに指摘し合えるように努めている。	プライバシー保護に関する研修を行っている。基本は丁寧な言葉づかいに心がけており、方言の好きな方には失礼に当たらないよう気をつけて使用している。記録は見えないところで記入し、カンファレンス時も名前を出さないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を確認し、自分で選択していただけるように配慮している。意思表示の困難な方には表情や雰囲気などからキャッチし、できるだけ本人の希望に沿った支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを保ちながら、本人の気持ちを尊重し、無理なく生活できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に選択していただいたり、家族に本人の好みを聞きながら、その人らしくいられるように対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を見極めながら利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	副食は半調理品を業者に依頼し、ご飯とみそ汁を作っている。利用者は皿拭きなど出来ることを職員と一緒にしている。外食や弁当を頼み好きなものを選んでもらったり、おはぎを手作りするなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事量を把握し、適切な食事形態にて支援している。その時の状態に合わせて個々に対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の力に応じた見守りや介助を行っている。対応が難しい方にも職員間で検討し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サイクルをチェック表で把握し、トイレで排泄できるように誘導するようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握し、またしぐさなどサインを見逃さないようにして、必要があれば小声で声をかけ誘導している。トイレでの排泄を大切に、立位の難しい方も2人介助で支援している。皮膚状態に留意し、必要時清拭やシャワーなど清潔に心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取や腹部のマッサージなどしている。その人に合った運動もお勧めしている。それでも便秘のある方は医師と相談しながら対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆったりと入浴できるように時間や順番などに配慮、体調や状況に応じて柔軟に対応している。	時間など希望があれば配慮している。介助の不要な方は一人で、また職員と会話したり、歌を歌うなどゆっくり楽しみながら入浴している。ADLに応じて機会浴もあり、入りたくない方には会話しながらタイミングを図るなど個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせ就寝できるように支援している。また、体調や疲労具合によって休んでいただくように促している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬リストを個人記録ファイルに綴り、職員がすぐに見れるようにしている。また、個々の状態に合わせて服薬の支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの役割だけでなく、その方の生活歴に合わせた役割や楽しみができるように支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や利用者の体調を考慮して散歩やドライブなどしている。また、ご家族と美容院へ行ったり食事に行ったりする利用者もおられる。	外食を兼ねてのドライブや、ハイブ長岡・東山のコスモス畑など外出している。また床屋やお墓参りなど家族の協力を得て出かけている。車の苦手な方もおり、遊歩道を散歩したり、玄関先のベンチで過ごすなど、短い時間でも外の空気に触れ気分転換してもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方にはホームで預かり、管理させていただいている。個々の要望に応じて購入の際に使わせていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望による支援はもちろん、さりげない働きかけでやり取りができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、浴室前には暖簾をかけて家庭的な雰囲気大切にしている。また、食事時のテレビの音量や音楽にも気を配るようにしている。	庭にキンモクセイの木があり秋には香りを楽しんだり、利用者と一緒に作った作品を飾るなど季節感を大切にしている。平屋造りで両ユニットの間にも畳ベンチのある共用空間があり、自由に行き来し交流している。またホールには畳コーナーがあり冬にはコタツを設置するなど家庭的な雰囲気作りにも配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや畳コーナーなど、思い思いに過ごせる場所がある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に馴染みの品物の持ち込みを働きかけており、安心して過ごしていただけるようにその都度対応している。	馴染みのタンスやテーブル・テレビなど自由に持ち込んでおり、利用者1人ひとりが自宅と変わらない環境で居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて手すりを設置したり、危険と思われる箇所はその都度対応を検討し改善に努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			